



# 薬物療法連携推進研修会



## 病院・薬局への研修開始前後 アンケート比較の集計報告



2023年12月9日（土）

京都府薬剤師会  
薬薬連携委員会  
中林 保



Kyoto Pharmaceutical Association

薬物療法連携推進研修会

病院・薬局への研修開始前後の  
アンケート比較の集計報告

# 利益相反の開示

演者名：中林 保

私は今回の演題に関連して、  
開示すべき利益相反はありません。



# 令和4年度（京都府薬剤師会 モデル事業）

## 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

### 1. テーマ

**薬物療法に関わる医療機関、薬局等**の関係者による患者の服薬状況等の**情報の共有**

### 2. 現状と課題

病院薬剤師会と薬局薬剤師会が**統合している京都府薬剤師会**では、委員会活動で**「薬薬連携委員会」**を設置している。

**現状において薬薬連携は十分とは言えず**、今後病院薬剤師と薬局薬剤師の連携をさらに推進するには、**両者が互いの業務を理解することが重要**であると考え、**薬局薬剤師の医療機関での実施研修をモデル事業**として計画した。



# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

## 3. 研修プログラム

薬局薬剤師が医療機関に訪問し、**入院時、退院時業務を中心に**下記内容の理解を深めるため研修を行った。

1. 病院薬剤師の薬剤管理指導業務について
2. **入院時**持参薬の整理・管理業務における**病院薬剤師の役割**について
3. 病棟における患者への服薬管理の業務内容について
4. 病院薬剤師の**退院時**指導業務について
5. **退院時**薬剤情報提供書におけるについて
6. **入退院**支援センターの役割や機能、病院薬剤師の役割について
7. 地域連携室の役割や機能について



# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

## 4. 評価方法

**医療機関での研修前後において、10項目の理解度を6点満点の自己評価**を実施し、研修することにより薬局薬剤師の知識が深まったどうかを検討するため、研修者ごとの自己評価をプレテストとポストテストで行い、Wilcoxon matched-pairs signed rank testを用いて統計学処理を施し、危険率5%で有意差の検定を行った。

**自由記載については同様にプレとポストテストについてテキストマイニング解析**を行い検討した。また、**研修後の意識変化**についてアンケート調査で検討した。

## 5. 研修施設

- ① 京都第二赤十字病院
- ② 舞鶴共済病院
- ③ 京都中部総合医療センター
- ④ 洛和会音羽病院
- ⑤ 康生会武田病院

## 6. 研修人数 計44名



# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

## 医療機関連携研修前後の自己評価（プレ VS ポスト）

質問項目	研修実施前（N=40）	研修実施後（N=40）	p
	平均値・標準偏差	平均値・標準偏差	
① 一般的な病院薬剤師の薬剤管理指導業務について	3.0 ± 1.17	4.6 ± 0.95	p < 0.001
② 入院時持参薬の整理・管理業務における病院薬剤師の役割	3.3 ± 1.12	5.0 ± 0.84	p < 0.001
③ 入院時薬剤情報の管理業務における病院薬剤師の役割	3.2 ± 1.08	4.9 ± 0.82	p < 0.001
④ 入院時処方の確認業務における病院薬剤師の役割	3.2 ± 1.07	5.0 ± 0.74	p < 0.001
⑤ 病棟における患者への服薬管理の業務内容について	3.3 ± 0.99	4.3 ± 0.85	p < 0.001
⑥ 病院薬剤師の退院時指導業務について	3.2 ± 0.94	4.5 ± 0.95	p < 0.001
⑦ 退院時薬剤情報提供書の作成方法や時期について	2.5 ± 1.18	4.7 ± 1.17	p < 0.001
⑧ 退院時処方確認業務における病院薬剤師の役割について	2.8 ± 0.99	4.6 ± 1.09	p < 0.001
⑨ 入退院支援センターの役割や機能について	2.3 ± 1.24	4.8 ± 1.01	p < 0.001
⑩ 地域連携室の役割や機能について	2.9 ± 1.15	4.3 ± 0.99	p < 0.001

### 【自己評価結果について】

病院研修を受けた薬局薬剤師の連携に関する自己評価を6点満点でプレテスト、ポストテストを用いて実施した。プレテストは受講生の研修前の理解度を知らることができ、ポストテストは研修効果の程度を確認することができる。自己評価にもとづき、**研修前後の理解度の変化は、10項目すべてにおいて有意に評価点が上昇した。今回の薬局薬剤師の病院研修は、全体的に一定の研修効果が認められたと考えることができる。**



# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

Q) 薬局薬剤師は薬薬連携に対して何ができるとおもいますか（自由記載）。  
【テキストマイニング解析結果】（プレ VS ポスト）

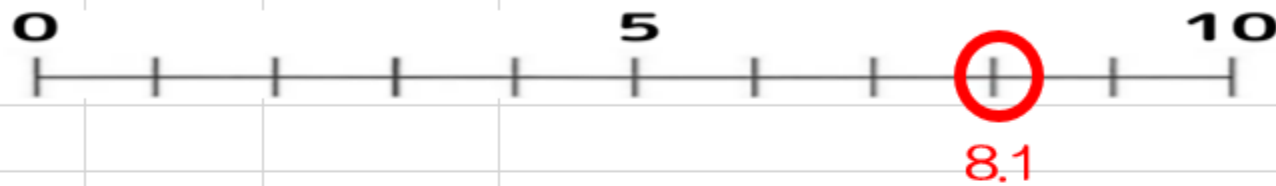


【ワードクラウドで比較】スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示される。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を示す。

# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

## Ⅱ. 病院研修受講前を「5」として現在の状態

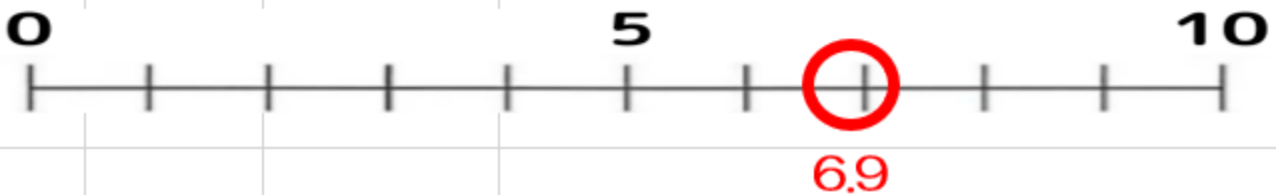
①患者特性を踏まえた効果的、効率的な情報提供実施に対する**関心度**の変化。



②患者特性を踏まえた効果的、効率的な情報提供実施に対する**意欲**の変化



③患者特性を踏まえた効果的、効率的な情報提供実施に対する**自信度**の変化



医療機関での研修後の意識の変化において、**情報提供実施に対する関心度・意欲の変化は5段階中3段階以上上昇**した。

しかし、**自信度においては、約2段階の上昇**にとどまった。





# 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」

## 6. 考察

「薬局薬剤師ができる薬薬連携」として、医療機関における研修前後ともに「情報提供」というキーワードが特徴であった。しかしながら、研修前では情報提供のツールとして「トレーシングレポート」しか出現していなかったが、研修後では「トレーシングレポート」以外に「**お薬手帳**」も特徴的なキーワードとして出現していた。薬局薬剤師は、医療機関内で**お薬手帳が積極的に活用**されており、**重要な役割を果たしている**ことを実感した。また、研修受講後、薬局薬剤師から病院薬剤師への情報提供実施に関する関心度・意欲が顕著に高くなった。薬局薬剤師は、**正確な医薬品情報が最も必要とする情報である**と認識し、**薬局薬剤師としても積極的にトレーシングレポートに加えお薬手帳を利活用**するという**意識変容が生じた**ものと考える。

本事業にご協力いただき

ました。ご施設様、

病院薬剤師の先生方、

薬局薬剤師の先生方に

感謝申し上げます。



ご清聴ありがとうございました

